

科目名	医療行動分析学特論		D2-203	担当教員名	飛田 伊都子、江川 隆子
単位数	1単位		選択	配当年次	1年次・第2 Semester (前半)
曜日・時限	集中 + 水曜日・5限目		教室	オンライン授業	
授業概要	<p>人の行動は環境との機能的関係をもつという視点に立つ行動分析学を教授する。特に、医療場面における患者や医療者の行動問題に対して、行動を測定し、その行動に対して介入し、そして効果判定の方法について講義する。さらに、看護の領域における診断と介入の方法を例に取り上げ、行動分析学的ケア介入の重要性を講義する。 (オムニバス形式/全8回)</p>				
到達目標	<p>1) 概念分析が理解できる。 2) 行動分析学の基本原理である三項強化随伴性について理解することができる。 3) 行動問題を例に挙げ、行動の測定方法、分析方法、介入方法、評価方法について考えることができる。</p>				
回	日程	見出し	内 容		実践的な 授業方法
1	9/10	看護理論と看護診断 (江川)	看護理論における大規模理論と小・中範囲理論の関係を概説し、それらと看護診断との関係を講義する。		
2		概念分析 (江川)	概念分析について概説し、関連論文を講読しながら、その必要性について議論する。[グループディスカッション]		○
3	9/22	行動の原理 (飛田)	バラス・スキナーによって提唱された行動分析学の基本原理について教授する。心とは何か、心による説明は行動を変容させることができるのか、行動の履歴的、現前の事象について教授する。		
4	9/29	行動の観察法と実験法 (飛田)	行動とは何か、個体とは何か、環境とは何か、について教授する。行動の研究への対象化、科学的な観察法、行動実験法について講義する。		
5	10/6	生得的行動・レスポネン ト・オペラント(飛田)	行動の分類、刺激の分類、レスポネン条件付け、オペラント条件付けについて教授する。		
6	10/13	強化随伴性・刺激性制 御(飛田)	強化随伴性、独立変数と従属変数、強化スケジュールとして比率強化スケジュールと時隔強化スケジュールについて講義する。 [グループディスカッション]		○
7	10/20	医療場面における行動 測定(飛田)	医療場面における行動の測定手法について講義し、その実験可能性について議論する。[グループディスカッション]		○
8	10/27	医療場面における実験 法の立案(飛田)	身の周りの行動問題を例に挙げ、行動分析学の手法を用いた実験法を立案する。[グループディスカッション]		○
キーワード		概念分析、行動分析学、三項強化随伴性、行動測定、実験法	履修条件	なし	
教材等	教科書(要事前購入)	行動分析学:行動の科学的理解をめざして(坂上貴之, 井上雅彦著, 有斐閣アルマ, 2018)			
	参考書(任意購入)	ケースで学ぶ行動分析学による問題解決(日本行動分析学会編, 金剛出版, 2015) 行動変容法入門(レイモンド・G.ミルデンバーガー著, 園山繁樹他訳, 二瓶社, 2006)			
成績評価方法(%) [評価のポイント]		①授業への参加状況(30%)、②レポート(70%) [①授業への積極性、②講義内容を十分理解し、臨床現場における問題に対して適用できるかを評価します。]			
授業時間外に必要な学修		教科書を読んでおくことが望ましい。			
学生へのメッセージ		指導を守らない患者、規則を守らない部下は、能力や性格特性に原因があると思いません。 「納得」するための原因分析ではなく、「行動変容」のための機能分析を習得しましょう。			

※ 授業の日程については変更する場合があります。